

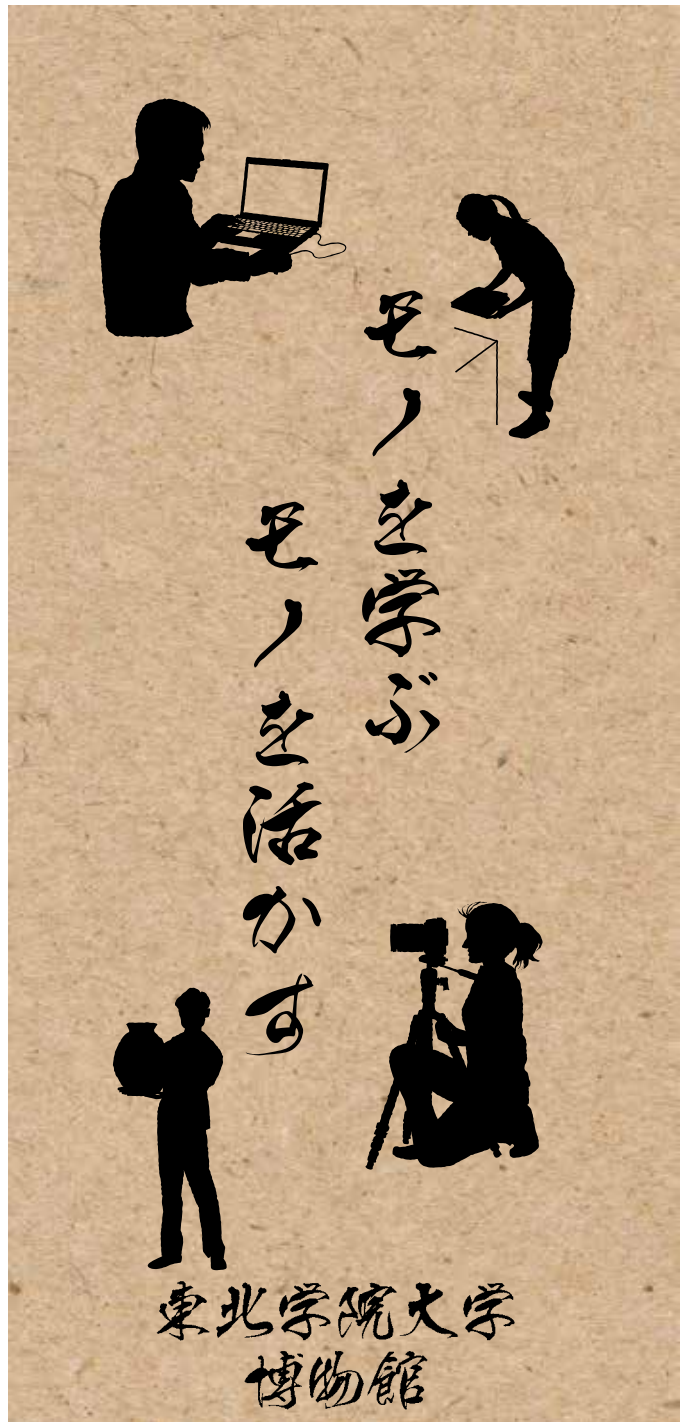
東北学院大学

# 博物館年報

平成30年度

# 2018

vol.10



## 施設概要

東北学院大学博物館は、文学部歴史学科をはじめとした本学の最前線の研究成果を一般に紹介するとともに、博物館学芸員の教育の場として活用することを目的に、2009年にオープンした。杜の都仙台のメインストリートの一つ愛宕上杉通りに面しており、市民に親しまれる大学博物館を目指している。

博物館の施設は鉄骨平屋建で、建物面積は約300㎡である。展示室（180㎡）のほか、収蔵庫、実習室、事務室、多目的トイレ等を有し、24時間の空調、機

械警備等によって貴重な資料等の管理環境を整備している。

展示の最大の特徴は、教員と学生が寝食を共にしておこなうフィールドワークや、実物資料を扱いながら歴史を読み解くゼミ活動での成果などをもとに、学生たち自身が展示を考え、実施していく点にある。考古遺物から民具、板碑、古文書、民俗芸能や祭りに関する記録映像など、展示されている内容はどれも、学生たちの驚きと発見の賜物である。



博物館概観



展示室

## 組織・運営

### 職員

館長	辻 秀人	文学部歴史学科教授
学芸員	加藤 幸治	文学部歴史学科教授
事務職員	及川 純一	研究機関事務課係長
嘱託職員	土岐山 武	
学芸研究員	真柄 侑	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	佐藤耕太郎	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	佐藤 匠	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	佐藤 麻南	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	結城 智	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	横山 舞	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程

### 東北学院大学博物館運営委員会

博物館の運営に関する重要事項を審議するため、東北学院大学博物館運営委員会が設置されている。2018年度は、2回にわたり開催した。議題は下記の通りである。

第1回委員会 平成30年5月24日（木）開催（5号館第4会議室）

- ・平成30年度事業計画（案）について
- ・平成30年度学芸研究員採用（案）について
- ・平成30年度開館日（案）について

第2回委員会 平成30年11月8日（木）開催（5号館第3会議室）

- ・2019年度事業計画（案）について
- ・2019年度予算（案）について

#### 平成30年度 博物館運営委員会委員名簿

博物館長	辻 秀人（文学部歴史学科教授）
文学部長	村野井 仁（文学部英文学科教授）
学務部長	加藤 健二（教養学部人間科学科教授）
図書館長	佐藤 義則（文学部歴史学科教授）
総務部長	菊地 祐一
歴史学科長	楠 義彦（文学部歴史学科教授）
経済学部	仁昌寺正一（経済学部経済学科教授）
工学部	櫻井 一弥（工学部環境建設工学科教授）
教養学部	津上 誠（教養学部言語文化学科教授）

## 展示 EXHIBITION

### 2018年の活動

2018年度の展示活動は、博物館実習受講生および学芸研究員による企画展「装い暮らし狩り遊び祭り—復元・アイヌの民具—」、歴史学科加藤ゼミを中心とした文化財レスキュー展（第17回～20回）、歴史学科菊池ゼミ・教養学部平吹ゼミとの共催パネル展示「新浜で繋がる自然・ひと・歴史」などを企画・実施したほか、博物館実務実習（館園実習）における成果としての縄文土器展、歴史学科考古学・日本史分野のゼミ活動紹介展示など、年間を通じて大小様々な展示会を開催し、活発な活動をおこなった。

### 企画展

#### 大学生による企画展

#### 「装い暮らし狩り遊び祭り—復元・アイヌの民具—」展

2019年1月26日～5月25日 東北学院大学博物館

2017年度に北海道沙流郡平取町二風谷の工人、高野繁廣氏に製作を依頼した、アイヌの復元民具コレクションを紹介した。二風谷の木工は、国の伝統的工芸品に「二風谷イタ」として指定されており、高野氏その製作に従事されている。今回復元した民具は、かつて萱野茂氏が収集し、現在は国の重要有形民俗文化財「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」に指定されている民具をモデルとしている。復元に際しては、詳細な製法や材料について記した萱野茂『アイヌの民具』（すずさわ書店、1978年）の記述を参考にした。

展示と図録（『KOREMITE vol.4』）の作成は文学部3年生（「博物館実習」履修生）が、展示室で映写するアイヌの祭りチプサンケの記録映像は歴史学科2年生（「民俗学実習Ⅰ」履修生）がそれぞれ担当し、学芸研究員（文学研究科アジア文化史専攻の大学院生）が全体のとりまとめを行った。

大学生による企画展  
装い暮らし狩り遊び祭り  
—復元・アイヌの民具—

2019年  
1月26日(土)～5月25日(土)  
東北学院大学博物館

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料 日曜日、祝日、休日、大学の定める休館日  
入館料 一般200円

展示方法 地下鉄「五橋駅」下車、歩道上杉通在庫方向に徒歩5分  
駐車場 神宮寺専用駐車場3台



## 博物館実務実習(館園実習)の成果展示

2018年9月12日～10月25日

東北学院大学博物館

2019年2月8日～3月19日

東北学院大学博物館

毎年恒例の、博物館実務実習(館園実習)の学習成果の発表展示を実施した。夏季期間の実習の成果展は9月に「縄文土器 ようこそ美しき美の世界へ」展と題して、春季の成果展は2月から3月にかけて実施した。



東北学院大学博物館館園実習 企画展

大木9式の縄文土器  
—Great Looking Pottery—

オミヤレ土器特集

寸胴 好きにはたまらない

見ちゃいなよ!この土器

かたつわり博士の土器講座

土器にドキドキ  
—あなたの知らないG字の世界—

# 縄文土器

—ようこそ美しき美の世界へ—

2018. 9/12-10/25

土器をかけるMission  
土器を見分けろ!!

メガネ 【必見】土器大作!

【開催時間】 9:30～17:00 (入館は16:30まで)  
【休館日】 休館日、祝日、大学の定休日  
【入館料】 一般200円

東北学院大学博物館  
〒981-8502 宮城県仙台市青葉区大森1-1-1  
TEL: 022-264-6001 FAX: 022-264-6081

## パネル展示「新浜で繋がる自然・ひと・歴史」展

2019年2月25日～5月25日 東北学院大学博物館

大学博物館と歴史学科菊池ゼミおよび教養学部教養学科平吹ゼミの共催展示。宮城野区東部の新浜集落は、17世紀初頭から400年の歴史が続いてきた海辺の集落であるが、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた。震災後、町内会を中心に復興まちづくりの指針がまとまり、市民や行政、大学などの協同による支援の取り組みが進む一方で、新浜の砂浜や砂丘、湿地の生き物とその生活環境も、予想を超える速さと広がりで見守り、この地に続いてきた暮らしの伝統を振り返る協同研究の成果を紹介した。



2019年  
2月25日(月)  
5月25日(土)  
東北学院大学  
博物館

**新浜で繋がる、  
自然・ひと・歴史**

仙台市宮城野区の東部に位置する新浜は、17世紀初頭から400年の歴史が続いてきた海辺の集落です。東日本大震災の津波により甚大な被害を受けましたが、町内会を中心に復興まちづくりの指針がまとまり、市民や行政、大学などの協働による支援の取り組みが進んでいます。

一方、新浜の砂浜や砂丘、湿地の生きものとその生活環境も、予想を超える速さと広がりで見守り、この地に続いてきた暮らしの伝統を振り返る協同研究の成果を紹介した。

**主催** 東北学院大学学長研究助成金「生態系サービスの享受を最大化する『震災復興シナリオ』創出」プロジェクト、東北学院大学博物館、東北学院大学教養学部平吹ゼミ・文学部菊池ゼミ、南浜生/砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク、「地域の自然と歴史に学ぶ」研究会

**協力** 新浜町内会、カントリーパーク新浜

## コレクション展「コレミテー東北学院大学博物館収蔵資料展一」

2018年6月23日～ 東北学院大学博物館

収蔵資料図録『KOREMITE』に収録したコレクション資料を中心に、当館の代表的な館蔵資料を紹介する企画展を開催した。

### 展示資料

- ・伊達吉村領知朱印状
- ・仙府年中往来
- ・貝原養生訓
- ・模様美術要覧
- ・福応寺奉納絵馬
- ・千紫万紅
- ・仙府年中往来
- ・おしらさま



## 歴史学科各ゼミの活動紹介コーナー展示

歴史学科の各ゼミの活動内容にかかる、下記の紹介展示を実施した。

- ・日本中世史 七海ゼミ（板碑からみる中世奥羽の世界） 通年常設展
- ・考古学 辻ゼミ（古墳を旅する／灰塚山古墳発掘調査速報展）
- ・日本近世史 菊池ゼミ（江戸時代の松島観光と奥州塩竈松島全図ほか） 6月23日～
- ・日本中近世史 竹井ゼミ（宮城県の戦国城館研究） 6月23日～
- ・日本古代史 永田ゼミ（木簡からいにしえを探る） 11月14日～



江戸時代の松島観光と奥州塩竈松島全図



板碑からみる中世奥羽の世界



灰塚山古墳発掘調査速報展



木簡からいにしえを探る



## SMMA見験楽学ツアー関連展示

### 「学都仙台Walker 近代高等教育のおもかげを訪ねて」

2018年12月8日～2019年1月10日

11月26日に開催したSMMA見験楽学ツアー「学都仙台Walker 近代高等教育のおもかげを訪ねて」の成果をもとに、五橋から片平周辺にかけての「学都仙台」の歴史を伝える場所を紹介する展示を開催した。

## 文化財レスキュー展および関連イベント

### 第17回文化財レスキュー企画展「Oh! Aikawa! 博物学者がみた「鮎川」」

2018年4月27日～7月27日 東北学院大学博物館

2018年1月26日（金）から3月26日（月）まで石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」2階で開催した展示を当館内でおこなった。アメリカ自然史博物館の博物学者のロイ・チャップマン・アンドリュースが100年前鮎川を訪れ撮影した、クジラの解剖作業の様子とそこに集まる鮎川の人々、風景の写真などをもとに、アンドリュース自身の解説とあわせて当時の暮らしを紹介した。



## 第18回文化財レスキュー企画展 「おもひで写真帖—今よみがえる鮎川—」

2018年6月13日～7月11日 石巻市指定文化財旧観慶丸商店

石巻市鮎川在住のカメラ好きの浜の大工、鹿井清介（かのいせいすけ）氏が、昭和30年頃に撮影した、牡鹿半島のくらしやなりわいに関する写真の展示会。民俗学ゼミナールの学生たちが整理している400枚あまりの写真の中から、牡鹿半島の鮎川浜の“黄金時代”の繁栄ぶりがみてとれる写真を学生たちが選び、紹介した。当時は、商業捕鯨や遠洋漁業、大規模定置網などの漁業が、巨万の富を生む時代であり、高度経済成長期とあいまって、現在では見当もつかないほどの賑わいがあった。その後、国際的な資源管理によって商業捕鯨禁止や200海里水域の設定などでこうした活況は鳴りをひそめ、かわって養殖業や観光業が主体となっていった。こうした“生活の移り変わり”を知ることから、地域の過去と復興していく現在、そして復興後の未来へという時間の流れを再認識してもらうことも意図した。

展示会場では、学生たちが企画・編集した小冊子『おもひで写真帖—今、蘇る鮎川—』を無料配布した。また7月1日（日）には、学生たちによるイベントを旧観慶丸商店を会場に開催した。



## 第19回文化財レスキュー企画展

### 「幸龍さんの牡鹿昔がたり」

2018年8月3日～10月22日 石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館

## 文化財レスキューワークショップ公演

### 「学校演劇:牡鹿昔ばなし～さるの人まね～」

2018年10月13日 石巻市立鮎川小学校

8月3日から10月22日にかけて、石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館を会場に、牡鹿半島の昔ばなしに関する展示「幸龍さんの牡鹿昔がたり」をおこなった。展示では、昭和10年に刊行された『旅と伝説』に掲載された「牡鹿半島の昔ばなし」を紹介した。そのなかに収録されているのが、サルが人の真似をして家のなかのいろいろな道具を使い、失敗してしまうという笑い話であり、これをもとに、小学生と大学生のチームで鮎川の老人ホーム・デイサービスで聞き書きした昔のくらしのデータをもとに肉付けし、小学校の担任の先生と大学生たちとで脚本を仕上げ、小道具や舞台絵の製作、稽古を重ねた。10月13日（土）、鮎川小学校で行われた学会会で、小学生と大学生によるこの手づくりの演劇「牡鹿むかしばなし～さるの人まね～」を公演した。



## 第20回文化財レスキュー企画展 「クジラお宝珍物館 クジラ工芸と鮎川の近代」

2018年10月31日～11月12日 石巻市指定文化財旧観慶丸商店  
2018年11月17日～12月6日 東北学院大学博物館

鮎川を中心とする石巻市牡鹿地方では、近代捕鯨が栄えてきたその副産物として、鯨歯や鯨ヒゲを使った工芸品がお土産物の定番となった。この展示では、鮎川のクジラ工芸の歴史と技術、捕鯨船の乗組員のみやげものなどをもとに、「鮎川と日本のクジラ工芸」（鮎川の鯨歯工芸品店、土産物店の工芸品から、鮎川と日本のクジラ工芸について紹介）、「くじらトレジャー：捕鯨と旅のみやげもの」（牡鹿半島の個人所蔵の旅のみやげものから南氷洋捕鯨について紹介）、「クジラの思い出と武勇伝」（学生たちによる聞き書きデータから、クジラにまつわるくらしのエピソードを紹介）、「浪漫巡航：世界のクジラ工芸」（国立民族学博物館所蔵の資料を中心に、世界のクジラ工芸を紹介。）の4つのテーマで展示を構成し、鮎川のクジラ文化とその広がりについて紹介した。

第20回文化財レスキュー企画展  
思い出広場

# クジラお宝珍物館

—クジラ工芸と鮎川の近代—

平成30年  
期間 10月31日(水) ▶ 11月12日(月)  
午前10時～午後5時 (火曜休館)

場所 石巻市指定文化財旧観慶丸商店  
1階文化交流スペース  
〒982-8501 石巻市中栄3-6-9 Tel.0225-94-0191

平成30年  
期間 11月17日(土) ▶ 12月6日(木)  
午前9時30分～午後5時 (日曜日・祝日休館)

場所 東北学院大学博物館  
〒981-8502 石巻市北町1丁目3-1  
Tel.022-264-6020

主 催：「牡鹿半島・思い出広場」実行委員会・東北学院大学博物館・石巻市教育委員会 協 力：国立民族学博物館

## 講座 WORKSHOP

## 仙台・宮城ミュージアムアライアンス関連事業

## SMMA見験楽学ツアー14「学都仙台WALKER:近代高等教育のおもかげを訪ねて」

2018年11月25日

仙台・宮城の知られざる魅力を探るツアー企画「SMMA 見験楽学ツアー」の第14弾として「学都仙台Walker—近代高等教育のおもかげを訪ねて—」を実施した。この企画は、仙台圏の博物館連携事業であるSMMA（仙台・宮城ミュージアムアライアンス）の街歩きイベントシリーズで、大学生たちによる学都仙台に関するお勧めスポットを、本学文学部の博物館学芸員資格課程3年生たちが案内人となって、五橋から片平界隈を案内した。内容の監修は文学部歴史学科の加藤幸治教授と東北学院大学博物館の土岐山武学芸員が行ったが、めぐるスポットの厳選やその場所に関する情報収集、ツアーで配布するしおりやパネルなどの小道具の作成にいたるまで、企画の全体にわたり学生が企画をおこなった。ツアーは、国の登録文化財「東北学院大学本館」、重要文化財「東北学院旧宣教師館」（デフォレスト館）、東北大学体育館（もともと仙台陸軍飛行学校の格納庫）、旧制第二高等学校跡、武家屋敷の石垣、馬上蠣崎神社などをめぐり、東北学院大学サテライトステーションで戦前の写真を見たり、情報共有したりして、約3時間にわたり街歩きをおこなった。当日は、抽選に当選した一般の方々23名が参加した。

SMMA 見験楽学 ツアー 14

ウォーカー  
学都仙台 Walker  
—近代高等教育のおもかげを訪ねて—

11月25日(日) 13:00~16:00

前夜以降、仙台は東北の近代高等教育の発展を促した。五橋から片平界隈はもとより五家屋敷が取り囲んでいた場所で、その跡地利用の一端で各種学校の建設がはじけだっていた。また在籍生を招くため東北学院は、外国人宣教師や英語教師などが移り住んでいった。

今回のツアーでは「学都仙台Walker」と銘打って、入学したばかりの学生たちが「学都仙台」をめぐり、学都仙台のおもかげを訪ねよう。多くの外国人宣教師の活躍がもたらした建築や、当時の様子を、仙台の歴史をたどりながら発見しよう。

【案内人】加藤 幸治 (東北学院大学博物館 学芸員)  
土岐山 武 (東北学院大学博物館 学芸員)  
東北学院大学 博物館学芸員資格課程3年生

コース

13:00	13:05	13:30	14:15	15:00	15:00	16:00
集合・サテライトステーション	東北学院大学本館	東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)	東北学院大学体育館	旧制第二高等学校跡	武家屋敷の石垣	解散

参加費 無料 定員 20人 申込 11月13日(火)

申込方法  
ツアーの申し込み、日程、年次、電話番号、ファックス番号またはEメールアドレスを明記の上、ファックス・Eメール・郵便での申し込みが可能です。お申し込みは先着順です。お申し込みは、お申し込みの受付時間内に行ってください。お申し込みの受付方法は、お申し込みの受付時間内に行ってください。

お問い合わせ  
仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局  
〒980-0021 仙台市青葉区本町1-16-20-201(サテライトステーション) TEL: 022-713-4463 / FAX: 022-713-4462  
E-mail: info@smma.jp, smma@smma.jp

SMMA  
www.smma.jp



馬上蠣崎神社



旧制二高記念園

## 研修会「ミュージアムのためのSNS活用講座」

9月19日 於東北学院大学博物館

当館と SMMA の共催事業として、合同会社 AMANENS 客員研究員の阿見雄之氏を講師に招き、博物館における SNS の活用について、ワークショップなどを通して学んだ。



## ミュージアム・ユニバース2018

2018年12月15日(土)、せんだいメディアテーク

仙台・宮城ミュージアムアライアンス主催の、仙台地区におけるミュージアムが一堂に会して実施する祭典「ミュージアム・ユニバース」に、博物館学芸員課程「博物館実習」3年生の企画によるステージイベントの「完全再現！アイヌの民具」と、体験ブース「ASOBIの達人 超（スーパー）」を出展した。

体験ブース「ASOBIの達人 超（スーパー）」では、吹き矢をアレンジした工作と射的を企画し、230名あまりの幼児から小学生たちが参加した。“ASOBIの達人”シリーズは、昔の遊びをアレンジして、子どもたちが本気で競い合ったり、工夫を凝らして人と違うものを作ったりして楽しむもので、今回が4回目の企画となった。

ステージイベント「完全再現！アイヌの民具」では、同学生らが現在準備中の1月から東北学院大学博物館で開催する企画展のPRと現在編集中の図録についてプレゼンを行った。この展示では、二風谷の高野繁廣氏が萱野茂『アイヌの民具』をもとに、東北学院大学博物館のために制作してくれた民具を展示した。ステージイベントでは、実演を交えながら、アイヌの人々の暮らしの知恵や自然環境とのかかわり、世界観などについて紹介した。



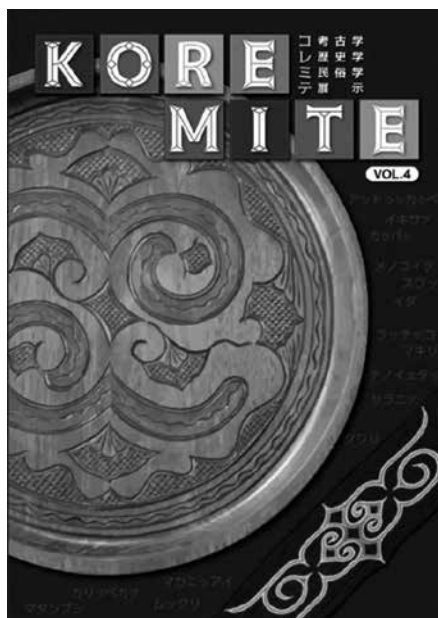
## 印刷物・広報活動

## PUBLICATION

## 収蔵資料図録 KOREMITE Vol.4

館蔵のコレクションを紹介する収蔵資料図録として、2015年度以降『KOREMITE』（コレミテ）を編集・発行している。2018年度は第4集として、文学部歴史学科の加藤幸治教授と北海道沙流郡平取町二風谷の工人、高野繁廣さんとのコラボレーションによって製作し、大学博物館の収蔵資料となったアイヌ民具コレクションを紹介する冊子を発行した。

収録資料は、大学生による企画展「装い暮らし狩り遊び祭り ―復元・アイヌの民具―」において展示を行った。



## 絵本『おしかがえし』

鮎川地区を中心とした牡鹿地方での、2016年度からの民俗学ゼミを中心とした文化財レスキュー活動の一環として、捕鯨に関する調査データをもとに制作した絵本『おしかがえし ～ぼくがであったむかーしむかし～』を製作発行した。

なお2019年度には、本学歴史学科民俗学ゼミナール出身のイラストレーター：蘓武美佳さんによる原画を展示する展示会を開催している。



## ツイッターによる広報活動

2018年4月より、Twitterの東北学院大学博物館公式アカウントを開設し、博物館の活動に関する様々な情報を積極的に発信している。2018年度のツイート階数は合計285回に及んだ。

[https://twitter.com/tgu\\_museum](https://twitter.com/tgu_museum)





## 教育活動 EDUCATION

### 博物館実務実習

実務実習として2018年度は館園実習履修者76名中40名の実習を受け入れ、博物館資料の扱いから展示の企画、模擬展示などの制作をおこない、またその成果を公表する展示会を開催した。

### 学部生の学芸員教育・専門教育

博物館実習（担当教員：加藤幸治・佐々木和博）の履修生をはじめ、考古学・民俗学実習など専門科目の履修学生が展示作業などに授業の一環として参加し、実践的な実習の機会を提供した。

### 大学院生の学芸員教育

大学院生を学芸員としてスタッフに加え、展示資料の準備や基礎データの作成、展示作業・来館者への解説などをおとして学芸員や研究者として必要な実務経験の機会を提供した。



## 実績 RESULT

東北学院大学博物館入館者数一覧 2018年度

月	開館日数	有料入館者数	無料入館者数	小計	開館からの延べ人数
4	24	9	56	65	13,857
5	22	24	226	250	14,107
6	25	8	298	306	14,413
7	25	11	114	125	14,538
8	19	9	93	102	14,640
9	23	9	25	34	14,674
10	27	10	184	194	14,868
11	24	0	231	231	15,099
12	21	6	201	207	15,306
1	22	4	16	20	15,326
2	23	10	12	22	15,348
3	20	13	102	115	15,463
合計	275	113	1,558	1,671	

施設見学の中・高校一覧

月	学校名	月日	人数
1	河南西中学校2年生	4月24日(火)	6
2	仙台高校2年生	4月26日(木)	103
3	蛇田中学校2年生	5月18日(金)	6
4	相馬東高校1年生	5月31日(木)	80
5	九里学園高校2年生	6月7日(木)	20
6	山形学院高校2年生	6月13日(水)	70
7	南陽高校2年生	7月3日(火)	67
8	新庄中学校3年生	10月11日(木)	4
9	石巻商業高校2年生	10月12日(金)	3
10	築館高校1年生	10月17日(水)	20
11	花巻東高校2年生	10月23日(火)	30
12	中田中学校2年生	11月2日(金)	38
13	最上中学校3年生	11月7日(水)	13
14	八向中学校3年生	11月8日(木)	27
15	山本学園高校1年生	11月12日(月)	10
16	大崎中央高校1年生	11月17日(土)	28
17	鶴岡中央高校1年生	11月19日(月)	78
18	村田高校1年生	12月7日(金)	24
19	松島高校1年生	12月14日(金)	165
			792

無料開館日入館者数

1	創立記念日	5月15日(火)	2名
2	後援会総会	5月26日(土)	142名
3	学部オープンキャンパス	6月23日(土)	240名
4	大学祭	10月12日(金)～14日(日)	114名
5	東北文化の日	10月27日(土)	13名
6	冬のオープンキャンパス	12月1日(土)	19名
7	公開クリスマス	12月14日(金)	160名
8	卒業式	3月26日(火)	4名

授業等での博物館利用人数

月	授業	人数
4	6	113
5	3	50
6	12	180
7	4	62
8	0	0
9	4	56
10	16	209
11	8	106
12	2	30
1	1	13
2	0	0
3	0	0
計	56	819

団体見学

1	5月10日(木)	水の森歴史探訪クラブ	41名
2	6月7日(木)	歴史散策の会	24名
3	7月5日(木)	片平丁町内会	32名
4	8月23日(金)	日本私立大学連盟	80名
5	10月3日(水)	商業教育研究会	10名
6	3月15日(金)	社会福祉法人 みんなの輪わ・は・わ宮城野	15名
7	3月29日(金)	学都仙台バスツアー	55名
			257名

見学学校の内訳

県別	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年
青森県			1				
岩手県	1	2	2	4	3	3	2
山形県	8	7	8	6	6	4	6
福島県	1	5	6	7	5	3	4
宮城県	9	10	15	8	9	8	6
北海道			1			1	
計	19	24	33	25	23	19	18

## 利用案内

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日

入館料：一般200円（減免措置あり）

※学校法人東北学院の役員・教職員・学生・生徒・園児・旧役員・旧教職員は無料。大学同窓生は、ホームカミング・デー等の館長の定める行事日は無料。未就学児、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校もしくは高等専門学校の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料。

〒985-8511

宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

電話番号：022 - 264 - 6920

FAX：022 - 264 - 6917

## 交通案内



●地下鉄「五橋駅」下車、  
愛宕上杉通を南方向に徒歩5分

平成30年度 東北学院大学博物館年報 vol.10

編集 東北学院大学博物館

発行日 令和2年3月15日

製作 株式会社ユーメディア



# モノを学ぶ、モノを活かす

東北学院大学博物館は、本学における最先端の研究成果を広く社会に伝えることを目的とし、二十九年十一月に開館しました。

当館が当面対象とする分野は、歴史学・考古学・民俗学で、貴重な文献や考古・民俗資料を数多く展示しています。

また、大学で開講されている博物館館内実習等における学びの場として活用されています。これらの実習では、教員・学芸員の指導のもとで館蔵資料を実際に扱いながら、資料の調査・保存・展示方法を学ぶなど、学芸員の実践的な技術鍛錬が行われています。

東北学院大学博物館

Tohoku Gakuin University Museum



TOHOKU GAKUIN  
UNIVERSITY

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1  
TEL 022-264-6920 FAX 022-264-6917